

CASE 2

東北芸術工科大学 × IHI



酒井 聡 東北芸術工科大学 / 芸術工学専攻長 (博士後期課程) 兼 担 デザイン工学専攻長 (修士課程) / デザイン工学部プロダクトデザイン学科 准教授 / 博士 (芸術工学)

— なぜ IHI とビジネスパートナー協定を締結されたのでしょうか。また、IHI に期待することは何でしょうか。

酒井 東北芸術工科大学 (芸工大) では、デザインの技法を身に付けることのみならず、エンドユーザーの課題を見つけ出し、アイデアを形にする「デザイン思考」を学ぶことを重要視しています。

現状、全国の芸術大学に対してデザイナーとしての就職先は非常に枠が少なく、大手の自動車メーカーや家電メーカーでも数名程度です。デザイン思考を身に付けていれば、デザイナーへの外注や、企業同士のコラボレーションなど、デザイン部門がある企業でなくても活躍できる場があると考えています。

IHI は多様な基盤技術を有している企業であり、それらの応用先を考えビジネスにつなげるまとめ役として、芸工大生のスキルが生かせると考えました。



— 実際に IHI との活動を行って、どのような感想をもたれましたか。

酒井 IHI のことは業種柄もあり堅いイメージをもっていたのですが、学生の意見を柔軟に吸収する姿勢をもっていると感じました。

メールなどで頻りに連絡を取り合うことで、あまり地理的な距離を感じることなくワークショップを進めることができました。

— デザイン思考とはどんなことでしょうか。

酒井 アイデアを出したり、イメージを形にしたりするうえでの、ものの見方だと思います。お客さまが抱えている問題を見つけ出して、そこから逆算していくということではないでしょうか。

— IHI とのパートナーシップを通じて実現されたい「夢」は何でしょうか。

酒井 地元である山形県へ貢献したいということです。少子高齢化、人口減少といった日本の抱える問題が先行して起こっている地域だからこそ考えられる、「住み続けられるまちづくり」の形が山形にはあるはず。IHI は広くインフラを扱っている企業であり、芸工大との連携により幅広いアウトプットが考えられます。製品のみではなくまちづくりも一緒に実現していければと思っています。

— 今後の展開はどのようにお考えでしょうか。

酒井 合同のワークショップは継続して実施していきたいですね。創出されたアイデアを深掘りしていき、既存製品の改良や新しいビジネスにつなげたいと思っています。

— ありがとうございました。



学生の声

普段は部屋にこもってデザインをしているが、グループワークに参加し学外の人と接することで、多様な考え方があることに気が付いた。

技術の展開先をどのような切り口で絞るかによって、いろいろなものが生み出せそうだと感じた。

社員の声

作ったものをどう使うのか、どう価値を感じていただくのかという、使い手の視点が抜けがちだったことに気が付いた。

